

## 斑点米カメムシ類の防除対策について

### 【出穂期前の管理】

- (1) イネ科雑草の穂は、斑点米カメムシ類（以下、カメムシという。）にとって餌場や産卵場所になるため、穂が出る前に畦畔や水田周辺の除草を徹底し、カメムシの密度を抑制する。
- (2) 畦畔の草刈りは、水稻の出穂前後に行うとかえってカメムシを水田に追い込むことになるため、出穂 10 日前までに完了させる。
- (3) イネ科雑草だけでなく、イヌホタルイ等のカヤツリグサ科雑草もアカスジカスミカメの繁殖源になるため、水田内の雑草管理を徹底する。

### 【出穂期以降の防除対策】

- (1) カメムシはイネの出穂を契機に水田に侵入するため、周囲と比べて出穂の早い水田は加害が集中しやすい。早生品種や移植時期の早い水田では、カメムシの侵入・発生に注意する。出穂期以降、水田内でカメムシの発生が認められた場合は、薬剤防除を行う。  
なお、防除の目安は、カスミカメムシ類の場合、乳熟期の水田内（畦畔際）のすくい取り調査（20 回振り）で 2～4 頭である。
- (2) 散布剤による防除時期は、対象とするカメムシの種で異なるため注意する（図）。クモヘリカメムシが発生しているほ場では出穂期～穂揃期（出穂 4 日後）に 1 回目の散布を行い、追加防除はその 10 日後頃に行う。カスミカメムシ類が優占するほ場では、乳熟期（出穂 7～10 日後頃）に 1 回目の散布を行い、追加防除はその 7 日後頃に行う。  
また、「天のつぶ」や「あきたこまち」などの割れ粳が発生しやすい品種では、カスミカメムシ類による被害を助長しやすいため、特に注意する。
- (3) 水面施用剤を使用する場合は、穂揃期～乳熟期に湛水状態で施用し、その後の多発が予想される場合は散布剤による追加防除を行う。  
なお、水面施用剤はクモヘリカメムシなどの大型カメムシ類には効果が劣る場合があるため、それらが優占するほ場では散布剤による防除を行う。
- (4) (2) 及び (3) の防除対策について、使用薬剤などの詳細は県が発行する「農作物病虫害防除指針」を参照する。
- (5) ミツバチが飼養されている地域で薬剤防除を行う場合は、養蜂業者との連携を密にし、危被害の未然防止に努める。

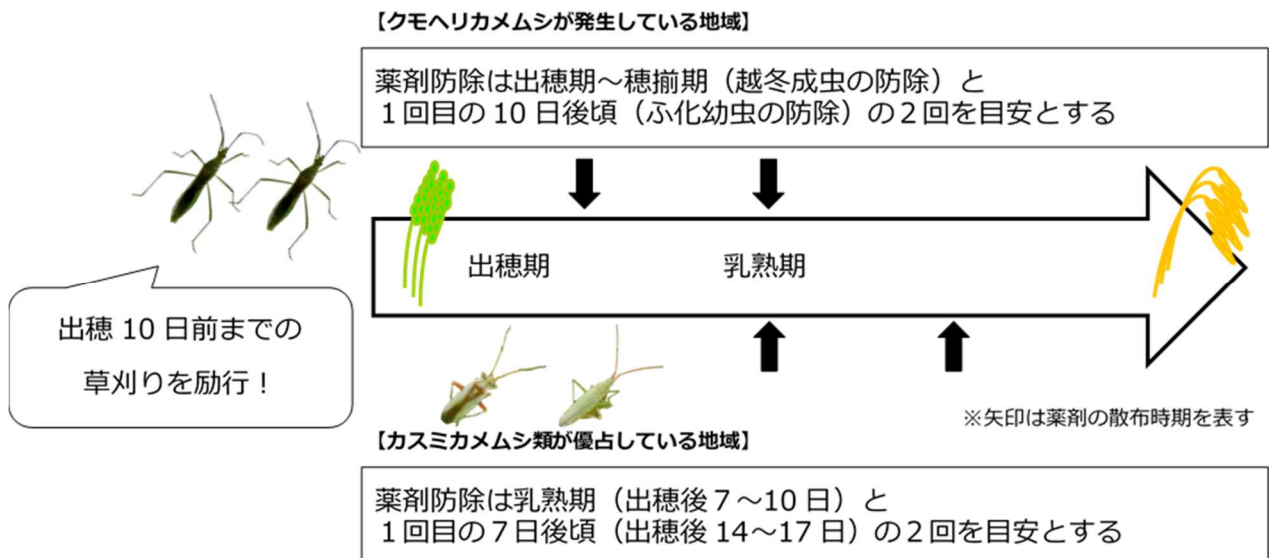


図 散布剤による斑点米カメムシ類防除時期のイメージ